

リーグ戦個別戦績一覧

++++++++++++++++++++ 【第十戦】 ++++++++++

日時 平成19年10月28日 午後0時40分キックオフ (快晴)
会場 萩の台グラウンド
相手 ハーレムFC
結果 3-3 (2-2、1-1)
得点者 黒田2、藤田
内容 神様、仏様、黒田様 (褒めすぎ?)

今年度リーグ最終戦。

会場は、前節と変わらず砂ぼこりの舞う萩の台。相手は、宿敵ハーレムFC。14年度から毎年対戦するも未だ勝ち星がなく、試合内容もほとんどが完敗。しかし、そのハーレムも、今年度はメンバー不足からか早々とリーグ降格を決め、かつての面影はないが、試合前は入念にボール回しを行い、最終戦への意気込みが感じられた。

一方、前節で2部リーグ残留を決めた県庁は、リーグトップを1点差で追う黒田にボールを集め、得点王を取らせることに焦点を絞ったが、メンバーは不足気味。なぜか生目の杜に到着した鳥原をはじめ、藤田も途中からの合流となり、GK谷之木はフィールドプレーヤーとしての準備も行った。

前半立ち上がり、いつものように守勢の県庁。しかし、5分過ぎにあっさり先制点を奪う。カウンターから中央の赤野が、DFライン裏へのスルーパス。反応した緒方が、作戦通りに中央の黒田へ。これを、落ち着いて「ごっつあんゴール」を右へ流しこみ、得点王に並ぶ得点をゲット。

これでペースをつかんだ県庁は、10分過ぎ、前線で谷口のドリブルから緒方にスイッチし、すぐさま黒田へパス。これまた黒田が落ち着いてゴールへ流し込み、単独の得点王を確定させる得点となり、2-0。ハーレムからの初勝利が近づいたかに思えたが、15分過ぎに右サイドを切り崩され、ペナ内で相手を倒してしまい、PKを与えてしまって2-1。その後押し込まれる事が多くなり、20分過ぎにはバックラインの間を切り込まれ、GKも交わされて同点にされ、前半を終えた。

(交代) 後半 久保アウト→藤田イン (MF)

鳥原アウト→谷之木イン (DF)

後半は、谷之木をフィールドプレーヤーとして投入。これは平成12年5月14日以来7年ぶりの出来事！ちなみにこのとき谷之木はフェニックス所属での唯一の得点を記録しています！が、みんなにはプレーよりも、見慣れないユニフォーム姿が気になる。しかし、体にフィットしたピチピチ感は、イタリア代表を彷彿とさせるような、させないような？

さて後半は、競り合いは五分五分であったが、パスワークで県庁が上回る。相手スローイン時のマークは相変わらず磐石で、相手を自由にプレーさせず。時に見せるDFラインの綻びも、GK小川を含めたカバーリングでシュートまで行かせず。しかし、10分過ぎくらい、縦パスを受けた相手FWが、DFを振り切り、あっさりと逆転弾を許した。ハーレムFWはハットトリック達成。

しかし、2部残留が決定し落ち着いていたフェニックスは、そのわずか5分後、相手ゴール前の混戦から、最後は藤田が5月以来のゴールを奪い3-3の同点。

1年前の萩の台を思い出させるごっちゃんゴールでもあった。

(交代) 後半15分 藤山アウト→高妻イン

同点とした県庁は、高妻を投入し、年齢(経験)で対抗する作戦に。久保野を除く

DF高妻、三井、谷之木シニアラインは、めったに見れない組み合わせ。その効果(?)があつてか、以降は県庁ペースとなる。特に、左サイドでの縦パスを起点にしたダイレクトプレーからのDFライン突破で再三チャンスを作るもなかなか決まらず、HT児玉(好)のどフリーヘッドもアゴアップで不発。以降、逆転を狙い攻め続けるも同点のままタイムアップとなった。

結局、宿敵ハーレムには勝てませんでした。シナリオ通り黒田の得点王が確定しました。試合内容は、攻撃は、ダイレクトプレーからの崩しや、グラウンドを広く使ってパスを回し、守備も、マークを基本とした粘りのあるディフェンスで、同点という結果以上の内容でした。

これで、今年の成績(5勝4敗1分)を僅かに上回る5勝3敗2分で、今期リーグ戦が終了。今期は開幕2連敗しましたが、2年連続で、勝ち越しを確保する堂々たる成績となりました。

なお、得失点差は、昨年度の14点(29得点15失点)を上回り、18点(35得点17失点)ですが、失点が2増えました。DF陣の奮起が期待されます

(合言葉は、ストップ・ジ・オウンゴール!)。そして、気づけば、今期は無得点試合がゼロでした。

参加者

〈先発〉

FW(黒田、緒方)

MF(藤山、谷口、赤野、児玉(好))

DF(久保、三井、久保野、鳥原)

GK(小川)

〈交代〉

MF(後半:久保→藤田)

DF(鳥原→谷之木、藤山→高妻)

監督 高妻

応援 戸田